



所在地／静岡県磐田市、藤枝市  
沿革／1965年学校法人第二静岡学園認可。  
1988年静岡学園短期大学開学、1994年静岡産業大学開学。  
学生数／約1700人 学部／経営、情報、スポーツ科学(2021年4月開設)

# 県民大学宣言

個の可能性を伸ばし、地域に尽くす人材を育成するプロセス

## 教育への期待を把握

**【学生】**  
2年次の全員面談を通して、個人の進路希望を把握する

**【地元企業等】**  
産官学民の連携を通して、地域人材に対する期待を把握する

## 個の可能性を伸ばす

**【正課授業】**  
「専門+活躍領域」で実践の場で生かせる応用力を磨く

**【キャリア支援】**  
1年次から自己理解を深め、自分の武器を磨く

**【課外活動】**  
意欲や行動力のある学生をさらに伸ばす

## 教育成果を伝える

本学の教育成果を具体的に伝えることで、

**【高校教員】**  
本学の教育にマッチする生徒に本学を勧めてもらう

**【地元企業等】**  
産官学民連携の学修の機会などを提供してもらう

## 注目！ 学生支援で得た声を基にキャリア支援を充実

自学が持っている教育の枠にその人を当てはめるのではなく、その人に合わせた教育をつくるという発想を大切にしている静岡産業大学。学生自らの将来目標が達成できるように、所属学科が決定する2年生全員に対して、キャリアカウンセラーの資格を持つキャリア支援課などのスタッフが面談を行い、在学中の学びや将来なりたい姿についての声を吸い上げている。

キャリア支援では面談結果を基に、その学生に向く授業や課外講座を紹介し、資格取得奨励金給付制度\*2を活用して自分の武器を磨くことを促す。一方で、吸い上げた声をキャリア支援実践プログラムの開発にも生かす。例えば将来、サッカークラブで働きたいという夢を持っている学生のためには、プロスポーツチームでのインターンシップ受け入れ先の開拓などを行っている。さまざまな経験を通して学生の視野を広げることで卒業後の長い人生の中で学び続けるための基礎体力を身に付け、未来の社会に対応できる心と身体を養うことをめざしている。

\*2 大学が指定する資格を取得した学生に、一資格につき20万円を支給する制度

### 全員面談(学生の声)

キャリア支援  
就職支援

キャリア支援  
実践プログラムの開発

一人ひとりの夢に  
対応した支援の実現

## CASE STUDY

# 地域の期待に応える教育で「県民大学」をめざす

「県民大学宣言」を提唱し、地域のための大学という明確なアイデンティティーを持つ静岡産業大学。従来のボトムアップ重視の教育に加えてトップ層の育成に乗り出し、地域の活性化を狙う。

## 静岡産業大学



学長 鷲崎 早雄

わしざきはやお●1968年東京大学工学部卒業、富士製鉄(現日本製鉄)入社。経営計画システムの企画開発に従事。1989年ビジネス・システムコンサルティング会社を設立。2001年東京大学大学院工学系研究科博士課程先端学際工学専攻修了。2002年静岡産業大学経営学部教授、2016年4月より現職。

### 今の静岡に必要なのは ビジネスを興せる人材

本学は静岡県や磐田市、藤枝市などの支援によって設置された私立大学です。そのため、開学以来一貫して地域の産業を支える人材を育成してきました。

静岡県には、二輪自動車や茶系飲料、紙製品などさまざまな製造工場が集積しており、「産業のデパート」と称されます。そうした現場で必要とされるのは、なにも高度な知識を持った専門家はかりではありません。学んだことを応用して実践に生かせる人材こそ必要なのです。本学では「経営+スポーツ」など、「専門+活躍領域」を学ぶ実践型の教育によって地域の人材ニーズに応えてきました。

しかし現在、静岡県は生産拠点や人材が流出し、地盤沈下が危惧

### 学生の成長を伝えて 地域との関係を深める

静岡県は例年、進学希望者の7割が県外の高等教育機関に進学しています。

このプロジェクトで学んだ学生には、後輩たちを教える講師の役割も期待しています。というのも、将来的には学生や卒業生によって自走するプロジェクトへと発展させたいからです。意欲ある学生の自主的な活動であるとの趣旨を明確にするため、単位認定は行わず、正課外の活動としています。

されています。今こそ新しい産業を興す人材が必要なのです。そのニーズに応えるため、特別課外プロジェクト\*1「bizneo」を本年度は新たに立ち上げました。意欲や行動力を重視して選ばれた約20人の学生は、2年間にわたり英語4技能のトレーニング、自己発見を目的とするキャリア教育などを受けながら、PBLに挑みます。テーマは地元企業の課題解決や、静岡を舞台にしたビジネスプランの策定など。地域を知ること、地域に存在するビジネスの種を理解し、自身のキャリアで譲れないものを見つけていることを通して、ビジネスの軸となる経営理念を磨きます。

ます。地域を盛り上げていくには、大学だけでなく、高校や地元企業と共に人材を育てる視点やしくみが欠かせません。企業や行政とは、県の未来について話し合いを重ね、一緒に人材を育てていく「冠講座」を人材や情報の提供を受けて開講しています。さらに今後は高校を加えた、高大社連携による人材育成を構想していきます。輩出した人材や起業したビジネスなど、教育成果を目に見える形で高校生や高校教員に示すことで、構想を実現させます。

コロナの影響でbizneoの開講は半期分遅らせましたが、通常授業は円滑にオンラインに移行できました。背景には、地域との連携がありました。例えば本学が事務局を務め、地域の企業等が参加する「藤枝ICTコンソーシアム」は、遠隔授業の支援スタッフの募集やスタッフへの教育などを担ってくれています。スタッフには本学の学生も多く、これぞまさに、地域と共に進める人材育成です。地域と共に進める人材育成を、県民大学「をうたう本学」として大きな意義がありました。今後も期待に応じた柔軟に教育の形を変えながら、地域と共に人を育て、産業の発展に尽くしたいと思えます。

\*1 bizneoは静岡理工科大学、藤枝市と共同で実施

取材・文 / 見山雄介